

学校名	糸満南小学校
授業者	4年

1. 単元計画

- 第1単元：海洋教育副読本を読んで、興味関心を高める。(オリエンテーション)
- 第2単元：身の周りにあるゴミについて調べ、糸豊環境美化センターを見学する。(社会科と合科)
- 第3単元：糸満の海岸(南浜公園)を散策し、海の生き物の環境を調査する。(ゴミ拾い・分別・発見)
- 第4単元：専門家(GODAC)のお話を聞いて、海の生き物や環境について知る。
- 第5単元：糸満の海岸(南浜公園)を散策し、海の生き物の環境を調査する。(マイクロプラスチック)
- 第6単元：南浜公園の砂からマイクロプラスチックを調査し、汚染の状況を確認する。
- 第7単元：SDGs連続講座「石けんは人と海に優しいの」の講話を聞き、海の環境について考える。
- 第8単元：海の環境問題について考え、自分たちにできることをまとめて発表する。
- 第9単元：次年度へ繋げる。(振り返り)

1-2 学年

第4学年

1-3 教科(単元を実地する教科を全てお書きください)

総合 社会 国語

1-4 単元の概要

(1)単元の構想

第4学年では身近な海の生き物の生態やそれを取り巻く環境問題について調べていく。第3単元では糸満の海岸(南浜公園)の散策や生き物の環境を調査し、課題をつかませる。また、第4単元、第7単元ではGODAC、SDGsの専門家の講話を聞き環境問題について考えを深める。第6単元では南浜公園の砂からマイクロプラスチックの有無を調査することで汚染状況を知る。海洋汚染の問題解決に向けて考察したり、調べたりする。第8単元で海の環境問題について学習したことをグループでポスター、スライド、ジャムボードなどにまとめ、海の環境について自分たちにできることを発表し、今後の行動へ繋げていく。表現活動を通して校内研修のテーマである「児童の主体性と個性を生かした自己肯定感の育成」に繋がりたい。

(2)海洋教育の視点

海洋資源の豊かさだけでなく、直面している海の環境についても目を向けさせ、守ろうとする気持ちや実践する気持ちを持たせる。

☆環境：人々の生活や産業を育む環境、地域の環境問題

1-5 単元設定の理由・ねらい

糸満の海の生き物の生態やそれを取り巻く環境についての体験的・探求的活動を通して、地域の海の豊かさや課題を見つけるとともに、環境等の問題も知ることで、地域を大切にしようとする気持ちを抱いたり自分たちにできることを実践したりする気持ちを育む。

1-6 育みたい資質や能力、態度 【 評価 】

ア. 【知識・技能】
 身近な海の生き物や環境について、実際に調査（観察）・見学したり、インターネットを活用して調べたり、専門家（GODAC）の講話を聴いたりすることで海に関する地域（糸満）の課題を理解することができる。

イ. 【思考力・判断力・表現力】
 身近な海の生き物や環境について、体験的・探求的活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。

ウ. 【学びに向かう力・人間性等】
 身近な海の生き物や環境の調査に携わっている人々の思い、それらを取り巻く環境問題について知り、自分たちにできることを考える。

1-7 単元の展開(全53時間)

時間	学習活動・主な内容	教師の指導●/主な評価□ 外部連携◎/使用教材◇/教具○
単元1 ③	○海洋教育副読本を読んで、興味関心を高める。 (オリエンテーション)	◇海洋教育副読本 ●1年間の見通しを持たせる。3年生までに学習した内容を確認し海への関心を持たせる □糸満の海の環境や産業に興味を持ち、調べようとしている。【ウ】
単元2 ⑤	○身の周りにあるゴミについて調べ、糸豊環境美化センターを見学する。(社会科と合科)	◇社会科副読本(わたしたちの糸満市)の活用 ◎糸豊環境美化センター ●教室から出るゴミやごみの種類について関心を持たせる。3Rについても関心を持たせる。【ア】
単元3 ⑥	○社会科の学習や糸豊環境美化センターの見学を踏まえ、現在の地域の海の生き物や環境の様子を予想する。 ○地域(糸満の南浜公園)の生き物や環境について実地調査をする。(ゴミ拾い・分別・発見) ○振り返る。	◇社会科副読本(わたしたちの糸満市)、海洋教育副読本 ◎南浜公園 ●南浜公園の海の様子(環境)や生き物を見学・調査する。(ゴミ拾い) □見学・調査したことを自分の思いを入れながら表現し記録することができる。【イ】
単元4 ⑤	○生き物や環境についての疑問や質問等についてまとめる。 ○専門家(GODAC)の方から海の生き物や環境の現状や課題についての講話を聴く。 ○インタビュー内容を考える。 ○振り返る。	◎GODACの方との連携 ○タブレットの活用 ●海の環境の現状や課題について知る。 ●インタビュー内容を話し合わせる。 □専門家の講話から、地域の海の生き物や環境の現状や課題を理解することができる。【ア】
単元5 ④	○地域(糸満の南浜公園)の生き物や環境について実地調査をする。(マイクロプラスチック) ○調べたことを元に、環境問題について考え、話し合う。	○タブレットの活用 ◎南浜公園 ●海の環境問題について考えさせる。 □調査したことを自分の思いを入れながら表現し記録することができる。【イ】
単元6	○南浜公園の砂からマイクロプラスチックを調査し、汚染の状況を確認する。 ○GODACの方の話と実際に自分で調査したことを比較しまとめる。	○タブレットの活用、拡大ルーペ ●南浜公園の砂からマイクロプラスチックを見つけさせる。 ●砂の調査から海の環境汚染について考えさ

⑤		せる。 <input type="checkbox"/> 海の環境に関する課題を理解することができる。【ア】 <input type="checkbox"/> 海の環境問題について知り、自分たちにできることを考えることができる。【ウ】
単元 7	○SDG's 関連講座「石けんは人と海に優しいの」の講話を聞き、海の環境について考える。	◎くくる糸満との連携 <input checked="" type="checkbox"/> 海の環境について考えさせる。 <input type="checkbox"/> 専門家の講話から、地域の海の生き物や環境の現状や課題を理解することができる。【ア】
④		
単元 8	○海の環境について考え、自分たちにできることをまとめ、発表する。(授業参観で発表)	○タブレットの活用(ジャムボード、プレゼンテーションソフト) ○画用紙などポスター作製道具 <input checked="" type="checkbox"/> これまで学習したこと、体験活動を通して気づいたことをまとめさせる。(グループ活動) <input type="checkbox"/> 身近な海の生き物や環境について、体験的・探究的活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。【イ】 <input type="checkbox"/> 身近な海の生き物やそれらを取り巻く環境問題について知り、自分たちにできることを考え、広めようとする。【ウ】
⑮		
単元 9	○自分たちにできることを話し合い、次年度に向けて実践計画を立てる。 ○1年間を振り返る。	○タブレットの活用(ジャムボード、スライド) ◇海洋教育副読本 <input checked="" type="checkbox"/> 実際に取り組めることを話し合わせる。 <input checked="" type="checkbox"/> 無理のない実践計画を立てる。 <input type="checkbox"/> 身近な海の生き物や環境問題について知り、自分たちにできることを考え、広めようとする。【ウ】
③		

2 学習活動の実際

(1) 単元における位置づけ

単元8 17・18/18 時間目

(2) 本時の目標

①指導目標

これまでの学習を通して、身近な海の環境が抱えている課題は何なのかについて調べ、自分たちにできることについて考える。

②本時のねらい

南浜公園の調査、外部機関の講話などから課題を知り、課題に対してどのように対策や努力をしているのかについて理解する。自分たちにできることをまとめ、発表する。

(3) 本時の展開

主な学習活動／反応	●教師の指導・支援 □評価の視点(方法)
1. 学習のめあてを確認する。	●これまでの学習から学んだことを保護者に向けて発表することを確認する。
<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; display: inline-block;">めあて：これまで学習したことを、調べたことについてグループで発表しよう</div>	

<p>2. グループ別に調べたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●発表の方法や発表を聞く視点について確認する。 ●保護者に向けてこれまでの活動や取り組みを補足説明する □身近な海の生き物や環境について、実際に調査（観察）・見学したり、インターネットを活用して調べたり、専門家（GODAC）の講話を聴いたりすることで海に関する地域（糸満）の課題を理解することができる。【知識・技能】 □身近な海の生き物や環境について、体験的・探究的活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。【思考力・判断力・表現力】
<p>3. グループの発表後に質問や感想を伝えあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●グループごとに評価、コメントを行う。 □身近な海の生き物や環境の調査に携わっている人々の思い、それらを取り巻く環境問題について知り、自分たちにできることを考える。【学びに向かう力・人間性等】
<p>4. 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の発表や友達の発表を聞いて、感想や次年度に向けての課題を持たせる。 □身近な海の生き物や環境の調査に携わっている人々の思い、それらを取り巻く環境問題について知り、自分たちにできることを考える。【学びに向かう力・人間性等】

3. 今回の活動の自己評価

- 児童が自発的に課題を見つけ、調査、活動、まとめることができた。
- 糸満の海の環境問題を身近に知ること、海の環境を守ろうとする気持ちが芽生えた。
- 合科学習に取り組むことで他教科と関連させ活用することができた。（国語・社会科）
- 次年度に向けての課題を児童それぞれが持つことができた。
- グループで協力して学習を進め、発表することができた。

4. 今後の課題

- ▲外部機関との連携と時期について見通しを持ちたい。（講話の内容と学習内容を並行させること）
- ▲全学年系統立てた、継続的な取り組みを行うことで全体の見通しを持ちたい。
- ▲児童が自発的に活動できるような手立てを考えたい。
- ▲児童一人一人が自信を持って表現する力を育成したい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本校は周りが海に囲まれ、漁業が盛んである。また、埋め立てや人工ビーチが存在する地域でもある。